



川口市立戸塚中学校

46期2学年通信 No.18

令和6年5月2日(木)

道徳通信3

『住みよい社会』で考える社会で生きるために必要なこと

○教材について

よりよい社会を実現するためには、迷惑をかけることのないような行動の仕方を身につけるだけでなく、進んで社会と関わり積極的な生き方を模索しようとする態度を育てる必要があります。マナーがカメラによって監視されていることを考え、よりよい社会の実現には社会連帯の自覚や公共の精神が必要であることに気づくことができたでしょうか。中学校の段階では、さまざまな場面において人任せにしがちになる生徒も見られる一方で、よりよい社会を築こうとする意欲が強まる生徒も見られます。既成のものに対する反発が出てくる年代ではありますが、本来、自己中心的で自分勝手な言動をよくないと思う心が内面には十分あり、誰もが望むよりよい社会の実現については大人より純粋に考えることもできます。

○先生から（決して正解ではありません…道徳に正解はないのですから…）

公共の精神とは、社会全体の利益のために**尽くす精神**のことです。社会生活では、公共の精神と一人一人が協力してよりよい社会をつくろうとする社会連帯の気持ちをもって生活することが重要です。**誰もが安心して、生活できる**社会をつくるために行われている取組や政策について、社会全体の利益になっているか、自分はどのように社会に貢献し、人々と連帯すべきか、という視点で話し合い、公共の精神と社会連帯の大切さについて考えられたでしょうか。社会というと難しく感じますが、学校生活でも同じことが言えるのではないのでしょうか。

これまで自分、周り、全ての人々が住みよい空間にいるために考えたことはあった。今回は監視カメラをテーマにしたことでカメラのおかげで犯罪が少なくなっていることに改めて気づかされた。しかし、プライバシーという今の時代にあった問題点があった。これから私はカメラをもっと増やして、プライバシーよりも犯罪が0の国になってほしい。

この教材を読み、悪い人のためにカメラをつけたら普通の何もしていない人にもプライバシーの侵害とか住人も犯人扱いになってしまう等のデメリットがでてしまうから、なんでも何もしていない人が悪い人たちのために損をしながら監視カメラがあることは知っていたけど、私たちが害がでていたことは初めて知った。この授業で、より犯罪やマナーを守らない人々を減らすべきだと思った。

防犯カメラがないと、犯罪が増えて悪化し、大問題になってしまう。実際、何もしなければ大丈夫だけど犯罪をして初めてカメラを気にすると思うので、何もしなければ気にしないと思った。プライバシーも侵害されるかもしれないけれど、被害を受けるよりはプライバシーを侵害されるほうがよいと思った。もちろん、プライバシーは侵害されてはいけないので工夫して設置すればいいと思う。

今まではごみなどの分別はしていたけれど、たまに「まっいっか」と思い、やらないことやってしまったことがあった。それらを無くすためにカメラをつけるとしても監視されすぎていたら、その町に住みにくくなってしまいう可能性があるのだから、一人一人が気をつけて生活できればこのようなことにならなくて済むのではないかと思った。